

《京都》御所と離宮の栞(おり)



其の十五

— 京都御所 —

庭にある竹と御殿に画かれた竹



清凉殿全景(左:漢竹, 右:呉竹)

かわたけ くれたけ



清凉殿東庭には漢竹と呉竹が植えられています。御殿寄り南側に漢竹が、その北側の少し御殿から離れた所に呉竹が植えられています。儀式の時には、庭上に整列したり座を敷設したりする時などに漢竹と呉竹を目印とすることがあったようです。

鎌倉時代末吉田兼好が書いた『徒然草』200段に「呉竹は葉細く、河竹(漢竹)は葉広し。御溝に近き

は河竹、仁寿殿(注:内裏において清凉殿東庭の東側にあった建物)の方に寄りて植ゑられたるは呉竹なり。」と著されたことでも有名な竹で、紫宸殿の左近の桜と右近の橋と同じく京都御所にはなくてはならない植物です。

竹は、松と梅と併せて縁起物の一つとして扱われていますが、中国においては、色褪せず寒さに耐える植物であることから松と梅、もしくは松と水仙と併せて「歳寒三友」の一つに挙げられ、古くから画題にも取り上げられました。

次頁では、雪の重みに負けず大きく成長しようとしている竹を中心として画かれる京都御所の杉戸絵を、2作品紹介したいと思います。



降雪時に撮影した竹(左:漢竹, 右:呉竹)

かわたけ くれたけ



竹の葉の詳細写真(左:漢竹, 右:呉竹)

かわたけ くれたけ

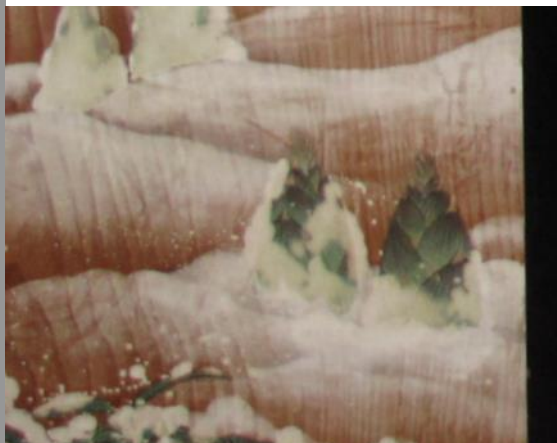




現在御殿廊下にある「雪竹」(昭和33年模写)



御花御殿南御縁座敷「孟宗雪中得笋図」画:廣瀬栢園



雪の間から顔を出す筍

まずは、小御所と御学問所をつないでいる廊下(小御所側)にある「雪竹」と題される杉戸です。右面には太さの異なる4本の竹が画かれ、雪が積もっている笹が両面に画かれています。この裏面には「夏草に鷺」と題された夏の絵が画かれています。

この杉戸絵は、安政度御造営(1855年)
あんどうたんがい
 時には安藤丹崖により画かれました。この杉戸は昭和29年に起きた小御所の火災による焼失を免れています。現在は収蔵庫で保存され、御殿には模写されたものが埋められています。

おはなごてん
 次は、御花御殿(御常御殿などの北側にあり、皇太子のお住まいなどに充てられた建物)の南御縁座敷にある
みなみごえんざしき
 「孟宗雪中得笋図」と題される杉戸です。
もうそうせつちゆうにたけのこをうる
 中国三国時代の呉の孟宗が、
もうそう
 筍(竹)を食べたいと望んだ病気の母のために、冬場に竹林へ筍を探しに行きました。しかし、なかなか見つからず、何とかして筍を持ち帰りたいと願ったところ、地面から筍が出てきて持ち帰ることができ、母を喜ばせることができたという故事を杉戸に画いたものです。孟宗竹という竹の名前は、この故事にちなんでいます。

この作品の右面には手に鎌と筍を持つ孟宗が、左面には筍が雪の間から頭を出している様子が画かれています。安政度にこの杉戸絵を担当した廣瀬栢園は、岸派の祖岸駒から絵を学んだ父の影響により、岸派の得意とした写実的な描写を特徴とし、様々な人物花鳥画を画いたとされています。

御内庭にある建物に画かれた可愛らしい猿の襖絵

般



御内庭の東南側にある錦台

観 般

ここで紹介する襖絵を以下のとおり展示します。

京都御所春の一般公開

平成28年4月6日(水)～10日(日)

管理事務棟・東側(今回初めて展示をおこなう場所です)

天皇が日常を過ごされた御常御殿の東側には、
ごないてい
御内庭があります。御内庭は、四季折々の樹木が茂り、
やりみず
北側から遣水が流れる非常に趣のあるお庭です。その
お庭の南東側の小高い丘には、
きんたい
錦台と名付けられた小
さな建物があります。錦台は、御殿が建てられた安政2
年より、1年遅れて建てられました。

この建物は、四畳半と三畳半の畳敷き、それに板敷
で構成されており、その四畳半と三畳半の間を仕切る
のが「松に猿猴」と題された襖です。松の枝にぶら下がる
えんこう
猿と、その手にぶら下がるもう一匹の猿が墨で画か
れています。体の大きさの違いから親子のようで、緻密
な筆使いによって表情豊かで非常にかわいらしく画か
れています。猿猴とは手長猿のことで、水中に映った月
を取ろうとして水辺に落ちたという故事があり、古くから
画題に取り上げられています。



四畳半の座敷側から見える「松に猿猴」 画：原在照 般

この障壁画を担当した

はらざいしょう
原在照(原派の三代目)は、安
政度御造當時には諸大夫間、
しよだいぶのま
御学問所や皇后宮常御殿など
こうごうぐう
の障壁画も担当しました。



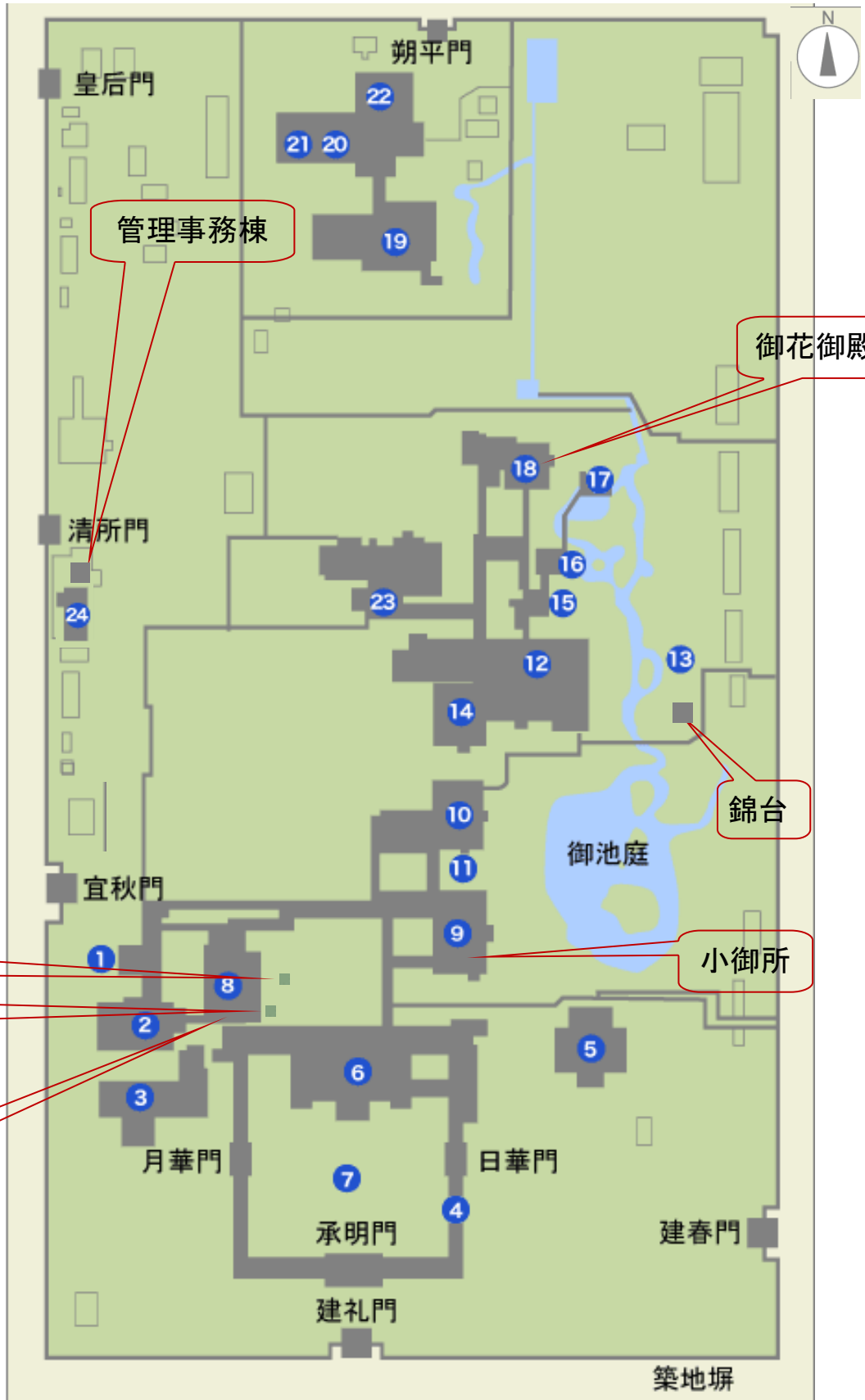
松の枝にぶら下がっている猿



猿の手にぶら下がっている猿

京都御所案内図

- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所



— 桂 離 宮 —

苑路を照らす燈籠



松琴亭上空の中秋の名月を月波楼から望む

京都御所の燈械、釣燈籠や燈台について[葉其の十](#)で取り上げました。燈籠には、釣燈籠の他に置燈籠があり、今回は桂離宮の置燈籠について紹介したいと思います。

置燈籠には、金属製、木製、陶器製や石製のものがありますが、桂離宮にあるものは全て石製で、さまざまな形のものが池の周りに24基配置されています。



● 燈籠の位置



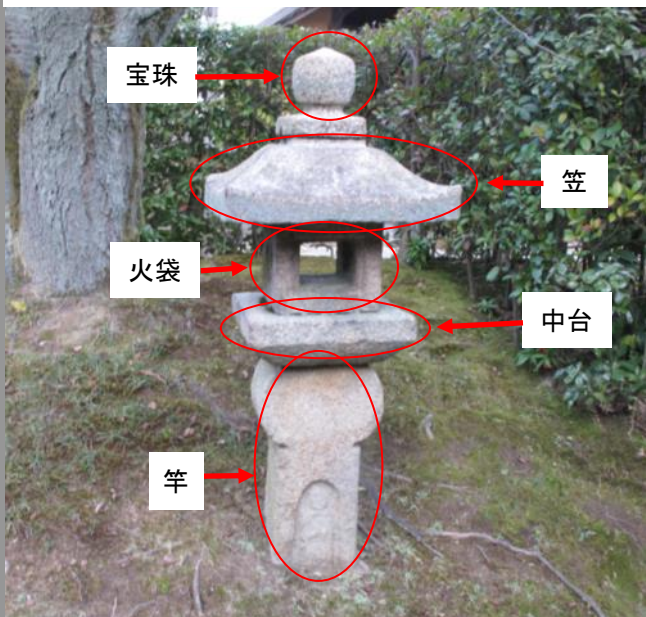
賞花亭付近にある燈籠(図:①)



左の写真の燈籠は池の南側、賞花亭の東北側にあり、
やかひと 家仁親王(桂宮八代目の親王)が「水蛭燈籠」と名付けられた
みずぼたるとうろう
 燈籠です(図:①)。

「池ひろミうつれハ水の蛭かとむかふもあかぬ夜半の灯火」
 と家仁親王が詠まれたように、燈籠に灯されたあかりが池に
 映ると、蛭が飛んでいるかのように見えたようです。

竿が地中に埋められているのが特徴で、生け込み型燈籠と
 呼ばれます。この形式の燈籠は17基あります。



書院北側にある燈籠(図:②)



洲浜南側にある記号や石像が彫られている燈籠(図:③)



中段の写真は、生け込み型燈籠の一種で織部型燈籠と呼ばれます(図:②, ③)。この燈籠は、江戸時代の大名で茶人の古田織部が好んだ燈籠の形であったことからその名が付いたとも言われています。頂上に宝珠があり、笠・火袋・中台(火袋の台となる部分)が四角形で、竿の上部が横に張り出しています。織部型燈籠の中には竿に記号や石像が彫られているものがあり、これをキリシタンに関係づけてキリシタン燈籠と呼ばれることがあります。



洲浜にある岬燈籠(図:④)



左の写真の燈籠は、池の東側にある洲浜・岬の先端に置かれる岬燈籠と呼ばれる燈籠です。燈籠を灯台に見立て、洲浜一帯は海辺の風景を表現しています(図:④)。

この岬燈籠は、比較的小型の燈籠で、竿がないため地面に近い位置に火が灯されるのが特徴です。桂離宮には、岬燈籠と同様に竿がなく地面に置かれる燈籠はこのほかに2基あります。



中島にある燈籠(写真左側:左の窓が日, 写真右側:右の窓が月を表している 図:⑤)



その一つは池の中島にあり、火袋が四角く、その窓には月と日の意匠があしらってあります(図:⑤)。

もう一つの燈籠は、笑意軒の北側にある舟着場付近にあります(図:⑥)。火袋と笠で構成されている燈籠で、三光燈籠と呼ばれています。

笑意軒前の舟着付近にある燈籠(図:⑥)



梅の馬場にある燈籠(図:⑦)



笑意軒北側にある燈籠(図:⑧)



下段の写真の燈籠は、雪見型燈籠と呼ばれます。この形式の燈籠は、笠が大きく、三脚もしくは四脚になっているのが特徴です。左の写真の燈籠は、おんりんどう園林堂前の土橋を渡った先にある梅の馬場に置かれています。これは、笠や火袋が上から見て六角形になっている四脚の燈籠です(図:⑦)。右の写真の燈籠は、笑意軒北側にある飛び石の脇に置かれています。これは笠や火袋が上から見て三角形になっている三脚の燈籠です(図:⑧)。



園林堂の前にある燈籠(図:⑨, ⑩)





最後に紹介する燈籠は、堂前型燈籠や仏前型燈籠と呼ばれるものです。この燈籠は、園林堂の前にあります(写真:左, 図:⑨, ⑩)。竿が基礎に乗せられ、笠の角が蕨手わらびて(上に巻いてある)となっているのが特徴です。この形式の燈籠は寺院によく見られ、献灯用として使用されています。

園林堂は、位牌などが置かれた持仏堂として使用されたので、この形式の燈籠が用いられたと思われます。


桂離宮の燈籠は、景観と実用、その両面への配慮のもとに、意匠や場所を吟味してさまざまな形のもので置かれているでしょう。

今回は桂離宮の燈籠について取り上げましたが、仙洞御所や修学院離宮にも魅力的な燈籠があります。それらについては今後取り上げたいと思います。

 マークは、御所・離宮の外側から、いつでもご覧になれます。

 マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

 マークは、春と秋には申込みが必要のない一般公開の際にご覧になれます。下記にて日程等をご確認ください。ようお願いします。<http://www.kunaicho.go.jp/event/kyotogosho/kyotogosho.html>

 マークは、通常公開していない場所にあります。

これまでの「《京都》御所と離宮の葉」については、
宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。



<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑3

宮内庁京都事務所 代表電話：075-211-1211

参観係直通電話：075-211-1215

其の十五：平成28年3月30日発行